

所沢市子ども・子育て会議
(平成28年度第1回)

会 議 録

平成28年6月3日

会議の名称	所沢市子ども・子育て会議（平成28年度第1回）
開催日時	平成28年6月3日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	市役所高層棟7階 研修室
出席者の氏名	（会議録別表1）のとおり
欠席者の氏名	藤澤 拓也（所沢市私立幼稚園協会） 喜多濃 定人（埼玉県保育協議会） 草刈 由美子（連合埼玉西部第四地域協議会） 笹川 美千代（市民公募）
説明者の職・氏名	
議 題	議事 (1) 教育・保育施設等の利用定員等について (2) 子ども・子育て支援事業の見直しについて (3) 事業計画の進捗状況・評価について (4) その他
会 議 資 料	・資料1：教育・保育施設等の利用定員等について ・資料2：子ども・子育て支援事業の見直しについて ・資料3：所沢市子ども・子育て支援事業計画 事業等管理一覧表
担 当 部 課 名	本田こども未来部長 及川こども未来部次長 こども政策課：岸課長、瀧澤主幹、森本主査、肥沼主任、中島主事 こども支援課：浅見課長 こども福祉課：市來課長 青少年課：森田課長、小池副主幹 保育幼稚園課：町田課長、野上主幹、小山副主幹 健康づくり支援課：淵江課長、美甘主査 （事務局）こども未来部こども政策課 電話 04-2998-9415

(会議録別表1)

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

	氏名	出欠席状況	選出母体等
1	近喰 晴子	出席	学校法人 秋草学園 秋草学園短期大学
2	小松 歩	出席	学校法人 白梅学園 白梅学園短期大学
3	広瀬 正幸	出席	埼玉県所沢児童相談所
4	川音 孝夫	出席	所沢市立小中学校校長会
5	高田 美智子	出席	所沢市民生委員・児童委員連合会
6	須田 昭仁	出席	所沢市PTA連合会
7	小沢 貞泰	出席	所沢市放課後児童対策協議会
8	藤澤 拓也	欠席	所沢市私立幼稚園協会
9	喜多濃 定人	欠席	埼玉県保育協議会
10	藺田 公斗	出席	地域型保育事業運営団体
11	小松 君恵	出席	地域子育て支援拠点事業運営団体
12	水野 良司	出席	放課後児童健全育成事業運営団体
13	森田 純子	出席	所沢商工会議所
14	渡辺 良雄	出席	所沢地区労働組合協議会
15	草刈 由美子	欠席	連合埼玉西部第四地域協議会
16	リーガン 有香	出席	市民公募
17	高橋 航太郎	出席	市民公募
18	西村 克男	出席	市民公募
19	池田 亜希子	出席	市民公募
20	笹川 美千代	欠席	市民公募

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>～ 開 会 ～</p> <p>■ 会議成立の報告</p> <p>■ 会長挨拶</p> <p>議事に入る前に、資料の確認と本日の会議の流れを事務局から説明をお願いします。</p> <p>お手元にお配りしております資料の確認をお願いいたします。 （資料の確認）</p> <p>事前の配布資料としまして、</p> <p>会議次第</p> <p>資料１： 教育・保育施設等の利用定員等について</p> <p>資料２： 子ども・子育て支援事業の見直しについて</p> <p>資料３： 所沢市子ども・子育て支援事業計画 事業等管理一覧表 委員名簿</p> <p>があります。なお、追加資料はございません。</p> <p>皆様、お手元におそろいでしょうか。</p> <p>次に、本日の会議の流れでございますが、はじめに、議題１として「教育・保育施設等の利用定員等について」、議題２として「子ども・子育て支援事業の見直しについて」、議題３として「事業計画の進捗状況・評価について」ご説明を事務局から行い、それぞれの議題について皆様からご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>なお、この会議は、午後３時３０分までを予定しておりますので、よろしくをお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>■ 傍聴確認</p> <p>■ 傍聴者入場（３名）</p> <p>本日の流れについては先程事務局からの説明のとおりです。</p> <p>それでは議題１の「教育・保育施設等の利用定員等について」事務局より説明をお願いします。</p> <p>～事務局より資料１に基づき説明～</p>

会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたので、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。</p>
委員	<p>資料1の3ページの待機児童数についてですが、昨年度より減少したとのことですが、これは事務局の皆さんの努力のおかげだと思います。質問ですが、今年度保育園入園を希望した人の中で、不承諾通知を受け取った人数はどのくらいですか。また、その人数からどのように調整して待機児童数が11人にまで減ったのか教えてください。</p>
事務局	<p>不承諾通知を受け取った人数は、463人です。この数字には、別の園への転園を希望されている方や、通知を受け取った後、幼稚園に入園された方等も含まれており、463人すべての方がどこにも入れなかったということではありません。求職活動中の方、ある特定の施設1園のみを希望されている方、育児休業中の方等を調整した結果、待機児童数が11人となっています。</p>
委員	<p>おおざっぱでもいいので、もう少し詳しく不承諾通知を受けた方の内訳を教えてください。</p>
事務局	<p>不承諾通知を受けた方の内訳については、今ここでお伝えすることはできかねます。</p>
委員	<p>不承諾通知を受け取った人が463人いるということは、保育需要があると見なして、定員数を考えていく必要があると思います。行政の一層の努力をお願いしたいです。</p>
事務局	<p>不承諾通知を受け取った方々のお話を伺ったところ、保育園と幼稚園のどちらにするか迷っていらっしゃる方や、現在保育園に通われていて別の園に転園を希望されている方など、状況は様々で、463人という数字が保育需要とそのまま結びつくかということ、必ずしもそうではないと考えております。</p>
委員	<p>待機児童11人の地区別の人数を教えてください。</p>

事務局	今、地区別のデータは、手元ございません。
委員	<p>この待機児童11人という数字は、現実と乖離していると思います。私の子どもも潜在的待機児童でしたし、私のまわりにも、保育園に入れなくて潜在的待機児童になっている人もいます。先程、転園希望の人や幼稚園と迷っている人がいるというお話がありましたが、実際には、保育園に入れなくて困っている人は、もっとたくさんいると思います。463人がどのような内訳なのかももう少し詳しく把握して、細かくデータにしてほしいです。</p>
事務局	<p>女性の社会進出が進み、子どもの出生率が低下し、入園申込者数も減少傾向がございます。現在、待機児童が11人おり、今後の状況を勘案しながら、幼稚園の小規模保育事業実施や幼保連携型認定こども園への移行で、受け皿を確保し、対応して参りたいと考えております。</p>
委員	<p>私は、入園申込者数が減少していると把握していません。認可保育園への申込者数はどのくらいですか。</p>
事務局	<p>先程、減少と申し上げましたが、正しくは、微減です。認可保育園への申込者数は、平成27年度は1,606人、平成28年度は1,598人です。</p>
委員	<p>以前、平成27年度は1,523人、平成28年度は1,847人と伺ったはずですが、なぜ数字が違うのですか。</p>
事務局	<p>先程お伝えしました申込者数は、どちらも4月1日時点のものです。申込みの取消し等も生じることから、集計の時点によって差が出てまいりますので、ご理解いただきたいと思います。</p>
会長	<p>他に、ご意見のある方いらっしゃいますか。ないようでしたら、次の議題に移らせていただきます。</p> <p>それでは、議題2「子ども・子育て支援事業の見直しについて」事務局から説明をお願いします。</p>

	<p>～事務局より資料2に基づき説明～</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>確認したいのですが、資料2(2)時間外保育事業の【現在の取組】のところで、「駅から近い民間保育園では最大で22時まで(15時間開所)」という文にラインが引いてありますが、これは削除することですか。</p>
事務局	<p>説明不足で申し訳ございません。見え消ししている部分は削除になります。</p>
会長	<p>遅い時間帯の保育ニーズが、減少しているということですね。他にご意見がないようでしたら、次の議題に移りたいと思います。</p> <p>それでは次に、議題3の「事業計画の進捗状況・評価について」事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>～事務局より資料3に基づき説明～</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>私の子どもが潜在的待機児童だったとき、妻は、一般型一時預かり事業を利用して仕事復帰しました。本当は、保育園にきちんと入園できるのが一番良いですけれども、潜在的待機児童にとっては、一時的ではあっても、このような事業を利用して、子どもを預けて仕事復帰できるというのは、とても助かりました。</p> <p>ただ、一時預かりといっても、一時的に保育が必要になって預けているのではなく、私のように、継続的に毎日預けている人がいると思います。聞いたところによると、就労していないお母さんが、病院に行くために一時預かりを利用しようとしたら、今月の枠がいっぱいで預けられなかった、ということがあったようです。本当に一時的な保育が必要な人に、保育が行き届いていないという現状を知ってほしい</p>

	<p>と思います。もし、ニーズが高いのであれば、定員を増やしたり、規模を拡大したりといった対応をしてほしいです。</p> <p>また、妻は、子どもを外に連れて行く場所があまりなかったり、家にこもりがちになったりしていましたが、子育て支援センターを利用したところ、同じ年代のお子さんを持つママ友達ができ、保育園や子育て支援の情報交換ができたと話していました。なかなか、同じ年代のお子さんを持つ地域のお母さんたちと交流する機会はないので、このようなコミュニティをつくる事業は大変意義深いと感じました。ぜひ、このような事業を続けていってほしいと思います。</p> <p>一般型一時預かり事業については、委員のおっしゃるとおり、ニーズが増えておりました、平成28年度には、新たに2園の保育施設で事業を開始いたしました。</p> <p>先程のお話にありましたように、本当に一時的な保育が必要な方に保育を受けてもらえるよう、努力してまいりたいと考えております。</p> <p>地域子育て支援拠点事業については、各中学校区に1施設の設置配置を目指して取り組んでおります。平成29年1月には、新所沢にこどもと福祉の未来館が完成し、そこに子育て支援部門と発達支援部門の2部門からなるこども支援センターを設置します。子育て支援部門では、親子同士が交流できるつどいの広場を設置します。地域子育て支援拠点事業の核として、さらに子育て支援を充実させるべく努めてまいります。</p>
事務局	<p>私は民生委員の児童部を担当させていただいております。民生委員が、孤立した子育て世帯を発見した場合は、市に報告することとなっておりますが、実際には、民生委員がそのようなお子さんやご家庭を見つけるのはとても難しいです。高齢者の場合は、年に1回調査がありますので、自分の地域の状況を把握することができますが、地域の子どもの情報はなかなか入ってきません。</p> <p>他市ですと、狭山市では、こんにちは赤ちゃん訪問の際に、住んでいる地区の民生委員、児童委員が、4か月児健康診査のお知らせに伺う、という取り組みをしているようです。所沢市では、愛育会のような別の団体もありますが、所沢市でも、健康診査に来ないご家庭があれば、民生委員に連絡していただき、一緒に訪問させていただければ、</p>
委員	

	<p>赤ちゃんの頃から面識を持つことができると思います。健康診査等に行かないようなご家庭は、幼稚園や小学校等に上がっても問題がある可能性が高い傾向にあります。ぜひ、赤ちゃんの頃から関わりを持てるような体制を整えていただけたらと思います。良い関わりを持てたお子さんは、自立したお子さんに育ちますし、私たちもそれが役目だと考えております。今のままだと、問題が起きてからの後追いになってしまいます。ぜひ、赤ちゃんの頃から、地域のご家庭と関われる体制を考えていただけたらと思います。</p> <p>立川市でも同じように、民生委員が乳児家庭全戸訪問事業に同行する取り組みを、モデル的に行っているようです。民生委員協議会で、了解を得られなければ、このような事業の実施は難しいとは思いますが、そうでなくても、小学校中学校、そして地域の中で、顔見知りはどうつくっていくかということは、子どもたちの成長にとって、とても大事なことだと思います。その第一歩として、いざとなったら、手助けしてくれる民生委員が地域にいるということを知っておくことは、関わる関わらないどちらにしろ、大切だと思いますので、民生委員協議会でも行政でも、前向きに検討していただけたらと思います。</p>
委員	<p>乳児家庭全戸訪問事業で平成27年度実績が2、438人とありますが、対象者はどれくらいだったのか教えてください。</p> <p>里帰り出産等の事情があって、会えないご家庭があるのは承知しておりますが、生まれたばかりのお子さんがいるご家庭で、お母さんやお子さんに会えるか会えないかということは、重要なことだと思います。将来、ドメスティックバイオレンスやネグレクト等、ご家庭に問題が起こって、本当に公が子どもに手を差し伸べなければならないような事態の発生を、予防するという視点で考えていかなければならないと思います。</p> <p>数年前に厚木市で起きた事件のような事態を、所沢市で引き起こさないようにしたいと真剣に考えております。ところっこ子育てサポート事業の母子保健型や妊婦健康診査事業がありますが、以前、保健師のお話を伺ったところ、就学前で、子どもやお母さんとの関わりが終わってしまうということでした。就学後は、民生委員、児童委員との関わりになると思いますが、その関わりの連携が非常に大事だと思</p>

<p>委員</p>	<p>ます。その連携がなければ、何か問題が起こってしまった後での対応になってしまおうと思います。子どもたちに、切れ目ない支援、見守りを提供できるようになることを、大いに期待しております。</p> <p>妊婦健康診査や乳幼児の健康診査を受診しないお母さんがいると思いますが、なぜ受診しないのか、その理由を市は把握しているのですか。</p> <p>また、ところっこ子育てサポート事業での相談内容をおおまかに教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員の皆さんのお話にもありましたように、今、課題となっておりますのは、妊産婦の地域でのケアや孤立化です。地域で様々な関わりを持つことは大切なことだと考えております。乳児家庭全戸訪問事業につきましては、自治体によっては、民生委員や愛育会の方が同行して行っているところもございますが、当市におきましては、こんにちは赤ちゃん訪問として、お子さまの発育状況等を専門的な視点から確認するため、従来看護師が訪問しておりました。平成27年度は、訪問員を1名増員し、3名体制で実施し、より細やかに対応できるようにいたしました。さらに、平成28年度から、保健師1名助産師2名の訪問体制に変更しました。妊娠期、周産期についての専門的な知識を有している助産師が訪問することで、より支援を充実させていきたいと考えております。地域との繋がりは、この事業以外でも、何かしら地域の方と協力していけるように考えていきたいと思っております。</p> <p>妊婦健康診査事業につきましては、過去5年間の受診率は92%から99%と、右肩上がりでございます。妊婦の方には、埼玉県と東京都の医療機関で使用できる、健康診査14回分の助成券をお渡ししております。14回分すべて使用される方もいらっしゃるれば、対象外の医療機関で受診する等、すべて使用されない方もいらっしゃいます。健康診査の受診率は、助成券の利用率で計算しておりますので、健康診査を受診していないと見なされる方の中には、他機関で受診されており、助成券を使用されていない方も含まれていると考えております。</p> <p>ところっこサポート事業の相談内容についてですが、大きく分けて3つございます。まず1つ目は、入園に関することです。保育園や幼</p>

	<p>稚園、地域型保育施設等、どのような施設があるのか、施設ではどのような取り組みをしているのか、というようなことについてご相談をいただいております。2つ目は、一時預かり事業に関することです。親の入院期間やパートの勤務時間だけ預かってくれる施設はないか、というようなご相談です。3つ目は、育児相談です。お乳の出が良くない、子どもの寝つきが悪い、というようなことから、学校で問題行動を起こしている等、子育てに関する幅広いご相談をいただいております。</p>
<p>会長</p>	<p>乳幼児に関する地域での情報の共有化については、民生委員、児童委員と協議するような機会がありましたら、ぜひ前向きに検討していただけたらと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>幼稚園型一時預かり事業や一般型一時預かり事業の利用者が多いということですが、特に、一般型一時預かり事業を定期的にご利用している方を、保育園の利用者として、利用実績に含めているのですか。</p> <p>また、資料2（1）の「子育て世代包括支援センター」とは、建物の名称なのか、既存の事業がセンターとしての機能を果たしているということなのか、どちらでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>一般型一時預かり事業では、1日当たりおおむね10人程度をお預かりしておりますが、そのうち7人は継続的な利用者となっております。一時預かり利用者は、保育園の利用実績には含めておりません。</p> <p>また、子育て世代包括支援センターについてですが、施設の名称ではなく、こども支援課窓口で行っている特定型、こども支援センターで実施する基本型に加え、保健センターで行う母子保健型、この3つを連携させた利用者支援事業を「子育て世代包括支援センター」として位置付けております。</p>
<p>委員</p>	<p>ところっこ子育てサポート事業は、施設数も増え、利用者が増えてきているということですが、今後は、設置数だけではなく、年間の延べ利用者数等もっと中身のわかるデータを提示していただけたらと思います。</p> <p>また、病児・病後児保育事業についてですが、個人的には、病気の</p>

事務局	<p>ときはお休みされたほうがよろしいかと思いますが、どうしても預けなければならないというご家庭に利用してもらうために、もっと事業の周知を図っていただきたいと思います。例えば、保護者が働いている企業にパンフレットを配布するのもひとつの手だと思います。</p> <p>ところっこ子育てサポート事業については、よりわかりやすいデータを提示したいと思います。</p> <p>病児・病後児保育事業については、平成28年度より、病児保育施設が1施設増えましたので、保護者の方にとって、より利用しやすくなったのではないかと考えております。事業の周知方法については、今後検討してまいります。</p>
委員	<p>議題1の内容に戻ってしまいますが、資料1についての質問です。先程、463人に不承諾通知を出したとのことでしたが、待機児童数は11人にまで減っています。452人の方は何かしら対策をとって、待機児童にならなかったのだと思いますが、不承諾通知を出した後、受け取った方がどのように対策をとったのか、後追いの調査等は行っているのですか。</p>
事務局	<p>不承諾通知を受け取った方には、定員に空きがある施設を電話で紹介しております。中には、幼稚園への入園で申し込みを取り下げた方や、引越しにより市外へ転出された方もいらっしゃいますので、最終的に待機児童数は11人となっています。以上のとおり、市といたしましても、不承諾となった方の対策について把握しています。</p>
会長	<p>その他にご意見ございますか。</p>
委員	<p>先程、子どもたちへの継続的な支援が必要だというお話がありましたが、民生委員、児童委員の方は小学校に上がったからの関わりになってしまうので、どうしても乳幼児期の子どもの情報が得られにくいのだと感じました。小中学校では、小学校から中学校に上がる時の中1ギャップを減らすため、連携を図って情報の共有をしています。</p> <p>子ども・子育て支援法は、18歳までの子どもを対象としています。しかし、一人の人間が生涯生き抜いていくための支援は18歳までで</p>

	<p>よいのかというと、そうではありません。やはり、18歳からまた次の段階へ進むためには、必ず誰かの支援が必要だと思います。そのように考えると、妊娠した段階から、情報共有をしていかなければならないと思います。支援する側にとっても、される側にとっても、情報共有を図ることはとても大切なことだと思いますので、ぜひそのようなシステムを作っていただきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>情報共有を図ることは、大切だということですね。その他ご意見ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>一般型一時預かり事業のところ、利便性の高いところに利用者が集中する傾向があるという記載がありますが、働くお母さんはこれからますます増えていくと思います。都内で勤務するお母さんも多いと思いますが、駅の中に保育園があると、子どもを預けて、すぐ電車に乗って仕事に行けますし、帰りもすぐお迎えに行けて、そのまま駅で買い物をすることもできて、とても便利だと思います。新たに施設を造るのは、費用もかかって大変だと思いますが、企業と協力して、企業に保育士を派遣する等、そのような支援もあるかと思います。今後、企業と協力するというような市の考えはありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>駅の中の保育園は、確かに利便性が高いです。しかし、駅の中に保育園を造るときに課題となるのは、園庭の確保が難しいことです。この課題をどうしたら解決できるか、今後も視野を広げて検討してまいりたいと思います。</p> <p>企業との協力についても、常にアンテナを広げて取り組んでいきたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>先程、他の委員からもお話がありましたが、切れ目ない支援から漏れしまっている子どもは多いと思います。明らかに子どもに問題があっても、助けを求めないお母さんもいます。その方たちに、どのように情報を発信していくか、その方たちが助けを求める前に、何か支援できたらよいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今朝、新聞でベビーホテルの記事を読みました。東京都では、夜間</p>

事務局	<p>の保育ニーズも高いようですが、所沢市ではどうですか。また、市として、夜間保育の対応はされているのでしょうか。</p> <p>子ども・子育て支援事業計画策定時に行ったニーズ調査の項目には、夜間保育がなかったため、夜間保育のニーズについては詳しく把握しておりません。日頃の業務においても、保護者の方から夜間も預かってほしいという要望はあまりありませんので、当市においてはそれほどニーズは高くないと考えております。</p>
委員	<p>前回の会議でもお話ししましたが、駅で子どもを預かって、少し離れた保育園へ送り届けるというのはどうでしょうか。駅から離れた保育園は、働いている親にとっては利用しづらいと思います。利便性の高い保育園に利用者が集中するのはそのためだと思います。駅の中の保育園だと、園庭の確保が難しいのであれば、駅で子どもを預かるだけの窓口をつくって、駅から離れた保育園へバス等で送り届けられたらよいのではないのでしょうか。これは、法律の問題で実施が難しいのですか。もし、このような事業が可能なのであれば、無理して保育園を新設しなくてもよいのではと思います。ぜひ検討していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>現在は、駅から離れた保育園も需要と供給のバランスがとれており、空きが少ない状況ですので、検討は行っておりません。今後、空きが生じてきた場合には、検討してまいりたいと思います。</p>
会長	<p>今後の課題として、ぜひご検討いただきたいと思います。</p> <p>他に、ご質問等ございましたら、次の議題に移ります。それでは、議題4「その他」について事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>～事務局より説明～</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問等ございましたら、お願いいたします。</p> <p>ないようでしたら、以上で本日の議事はすべて終了いたしましたの</p>

事務局	<p>で、事務局にお返しします。</p> <p>閉会にあたりまして副会長よりご挨拶をいただきたいと思います。</p> <p>■ 副会長挨拶</p>
事務局	<p>以上で、平成28年度第1回の子ども・子育て会議を閉会いたします。</p> <p>～閉会～</p>